

九州大学では、筑紫キャンパス内の土地等の有効活用に向けて民間活力を積極的に導入しつつ、関係自治体、地域住民等と協議・調整・合意形成を図りながら、具体的な検討を開始することとしました。については、地域住民や民間企業等の方々からの幅広いご意見を募ってまいります。

1 九州大学 筑紫キャンパスの概要

1 立地環境

筑紫キャンパス（約 26ha）は、福岡市に近接する大野城市と春日市の境界に位置し、周辺には小中学校、高等学校、公園、球技場、春日市役所、福岡県合同庁舎等の公共施設が立地しています。

また、九州自動車道・福岡都市高速のインターチェンジ及び JR、西鉄の鉄道駅に近接し、福岡市中心部や九州各地及び国内外の交通拠点である博多駅や福岡空港等へのアクセスも容易です。

2 自然環境

筑紫キャンパスは、福岡市近郊の市街地の中にあって、北隣する運動公園とともに緑豊かな一画を創り出しており、大宰府の山々を背後に控えたキャンパス内には、街路樹からなる都市型緑地と自然林が広がっています。

3 地域・地区

第一種中高層住居専用地域(50/150)、第2種15m高度地区、法22条区域、埋蔵文化財包蔵地（筑紫キャンパス内的一部エリア）

4 筑紫キャンパスマスターplan 2020 の概要

九州大学では、創造性と人間性豊かな人材を育み、優れた研究成果を世界に発信し続けることにより、大学が地域とともに一層発展することを目指して、「筑紫キャンパスマスターplan 2020」を策定しています。

キャンパスマスターplan

https://campus.kyushu-u.ac.jp/archive/plan/master/chikushi_mp.pdf

このマスターplanは、九州大学のビジョン(VISION 2030)を実現する舞台として、また、絶えず変化する学術分野に対応するために、先端科学の融合拠点である筑紫キャンパスにおいてさまざまな施設等を整備する際の検討の拠り所となっています。

VISION 2030

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/president/vision>



2 関係自治体等との土地等の有効活用に関する協議・検討状況

筑紫キャンパスや周辺の公有地において、「文教環境の向上」及び「にぎわいの創出」に資する地区計画等の検討を関係自治体（大野城市、春日市）とともに進めています。

今後も、関係自治体等との意見交換を重ねつつ、このエリアに求められる機能やサービスに関して、地域住民等から幅広い意見等もヒアリングし、具体的な構想の策定を進めていく予定です。



3 有効活用検討エリアの概要と主要テーマ

1 概要

「戦略的施設用地（運動場）」と隣接する「テニスコート」「アカデミックゾーン」の一部を一体の地域環境として捉えた上で、キャンパス全体の有効活用を検討します。

有効活用検討エリアの敷地面積は、概算で約 20,000 m² ~ 40,000 m² (最大 4.0ha、12,100 坪) 規模です。

九州大学が有効活用検討エリアを引き続き所有し、公募を経て、進出企業等との賃貸契約により賃貸し有効活用を図ります。

2 有効活用するまでの主要テーマ

先端科学の融合拠点を目指し、教育研究を高度化しつつ所有資産の価値を最大化するために、「筑紫キャンパスマスターplan 2020」で掲げた、筑紫キャンパスの4つの目標像（①社会にひらかれた未来を拓く最適で最先端のキャンパス、②安全・安心で持続可能なキャンパス、③地球環境に配慮する快適で美しいキャンパス、④歴史を未来につなぎ人々の愛情と誇りを醸成するキャンパス）を踏まえつつ、現在、次のようなテーマで土地等の有効活用を検討しています。

また、産学官民連携を積極的に図りながら、地域社会になくてはならない、愛され、親しまれるキャンパスのあり方を探っていきたいと考えています。

◆キャンパスの研究教育機能を高めつつ、人を呼び込む仕組みやイノベーションを巻き起こすハブ機能を備えた環境づくりに寄与する有効活用を目指します。

◆キャンパス全体をさまざまな実証研究の場として活用するための環境づくりに寄与する有効活用を目指します。

◆研究と賑わいの場が共存する環境づくりに寄与する有効活用を目指します。

問い合わせ先

福岡県春日市春日公園 6-1
九州大学筑紫地区事務部総務課内
所有資産の有効活用等に関する筑紫地区作業部会
担当：九州大学大学院総合理工学研究院
客員教授 松口 龍
メール：syoyushisan@jimu.kyushu-u.ac.jp

※お問い合わせの際は、必ずお名前とご所属をご記載ください